

ICT を活用した教育はどのような成果をもたらすか

—早稲田大学大学総合研究センターの取り組みを踏まえて—深い学びを支える

参加者アンケート

当日参加者数：60名

アンケート提出数：38件

千葉大学アカデミック・リンク・センターは、教育関係共同利用拠点として、「教育・学修支援専門職」の養成のために必要な研修プログラムの構築・運営の準備に取り組んでいきます。今後の活動のために、本日のセミナーに参加されたご意見・ご感想をお寄せください。なお、記載いただいたご意見・ご感想は、個人名・組織名が特定できないかたちで公開する場合があります。

1. 本日のセミナーで、よくわかったこと、新しい発見などがあればお書きください。

- ICT 活用の学習方法の最前線を見ることができたのは良かった。これからの高等教育の方向性が理解できた。
- WEB クリッカーが便利だと思う。
- 反転学修の効果と必要性。
- ICT 活用によって効率的に教育ができるのではと考える。
- ばくぜんとしていたイメージだったが概要について理解できたと思う。
- 氏名と学生証番号がひも付きという点は大切。匿名を悪用させない点も Point。
- 最新の ICT 教育活用のトレンド。
- 反転授業の効果。実際の授業手法(事前課題未提出者への指示、フリーライダー解消について)
- ICT を活用した教育について、基本的な事項や効果から説明していただけてとても参考になりました。
- 先進的な研究、実践で大変刺激を受けました。My WASEDA の Web クリッカーが本学でも使えたらいいのですが、と思いました。
- 冒頭の Web クリッカーのご紹介にて授業内でクリッカーなど活用することでライブ感のある授業になるということがよく分かった。
- 全学的にとりくんでいる早稲田大のことがよくわかった。
- ブレンディッドラーニングの実例が知ることができました。また、「学びの個別最適化」が今後重要であることを理解できました。
- ICT を活用した教育が進んでいることを実感、特に MOOCs の授業数が沢山あるなあと感じました。
- オンラインでもできること、対面でないとできないことを考えて効果的に混ぜ合わせていくことを考えるというやり方。
- ICT が対面授業を否定しているわけではなく、むしろ対面授業の質を高める可能性があること。学修の個別最適化に向けた具体的な解決策のヒントになった。
- ICT 活用することで学生の自習時間を増やせることや教員の負担軽減のメリットがあることがよくわかりました。早稲田大学がかなり先に進んでいるのでビックリです。
- 教育を考える時、一教員だけではどうにもならないこともあることがよく分かりました。
- 教場型授業と自学自習の関係 具体的配慮。
- 実例を見せていただきイメージがついた。また、メディア授業を行う際フィードバックなど教員側の負荷(作業量)もかなり増えるのかとも感じました。(補助者の配置も有用になるか。)
- ICT を使った授業は普段の 0.1%しか伝わらない。しかし、やらないよりは良い。高度授業 TA の役割⇒アクティブラーニングにおける評価でも重要。
- ICT 授業と対談型授業の役割分担。
- クリッカー、反転授業、reflective learner

(次ページに続く)

- ・教室ではいわゆる「授業」はしない:それ以前の「予習」の比重が:教室では対話的活動を⇒非常に多岐にわたっている。
 - ・最新の ICT を活用した教育の現状がよく分かりました。
 - ・反転学習の方法。
 - ・大学の教員がどのような目線で授業を行っているのかが分かった。
 - ・Web クリッカーを活用した講義やセミナーの可能性、アクティブラーナーとディレクティブラーナーの特性、ICT 活用、大学の学びの最先端の動向
 - ・反転教育の重要性、ICT 教育と学生(受講生)の資質に関してが興味深い。
 - ・ICT を活用した教育では、一斉授業で出来ない、個別最適化を可能にする。学生は予習やディスカッションを通して自ら学ぶ姿勢をとることが大切。それを ICT が手助けする。
 - ・他大学での取り組みについて、反転授業の運営術。
 - ・自分が受けた「教育の再生産」からの脱却、この言葉につきると思います。
 - ・机上の空論でなく、現場の先生からの話が大変興味深かった。早稲田大学の事例が大変わかりやすかった。
- (以上、原文まま)

2. 本日のセミナーで、よくわからなかったこと、疑問に残ったことがあればお書きください。

- ・これから議論が深まっていくと思うが、学びの個別最適化の見通しがよくわからない。
 - ・システム的な用語が多く、理解が難しいところもあった。
 - ・大変わかり易いセミナーで、スライドも詳しくすぎず詳しくなさすぎないためか?
 - ・対面と e-ラーニング授業の評価方法の相違について。今後のトレンドとして学生個々のニーズに沿った反転授業(ブレンディッドラーニング)が求められるという話があったが、これらレベル別の e-ラーニング教材の作り方について⇒質疑応答で現状はわかりました。
 - ・人数比を TA で本当に解消できるのか> 毎年ビデオをとりなおす負担は大変そう。(法学はそうせざるを得ない)
 - ・反転授業の重要性がよくわかった。
 - ・高度授業 TA の育成プログラム。
 - ・事前にビデオを見せてないが、どのように見せられるのか? (Moodle)
 - ・「高度授業 TA」の育成部分も気になった。
 - ・実際プログラムを作る方法(体験)が必要かと思います。
 - ・自学自習のために提供する器材と教室での discussion テーマとのステップのつけ方、レベル設定。
 - ・新しい研究方法の成果を調べるための研究計画を倫理審査の学生の参加の同意性一質問で解決しました。
 - ・AI を使用した個別のカリキュラム講義の方法。
 - ・Web クリッカーを導入するためにどのような手続きをすればよいか、システムを作るためにはどれくらいの費用がかかるのか知りたいと思った。
 - ・ファカルティカフェの運営方法
- (以上、原文まま)

3. 大学における教育・学修支援の在り方についてのお考え、教育・学修支援のために必要と思う資質・能力、また、教育・学修支援のご所属先での取組事例やご存知の特徴ある事例などがあればお書きください。

- ・このようなセミナーを多くの教員、職員に受講できるようにして現在の方向性に気付けるような場を設ける必要があると思う。
- ・数理系科目でアクティブラーニングがうまくいくのか心配でなかなかふみきれない。
- ・今日も active learning を何度か耳にしましたが、passive learning も有り得ないか？ (初出)
- ・ICTを活用した授業における図書館職員として支援できることを検討していこうと思いました。
- ・新しいものを積極的に取り入れることの大切さを感じた。また、自分が受けてきた教育の常識固定観念にとらわれないことも大切だと思った。
- ・新しいこと、事例を学ぶという意欲と行動。
- ・ネットワークとセキュリティのインフラ整備をどのように計画の中で構築していくか。
- ・ガイダンスやセキュリティ教育などに活用できると思います。新入生、健康、就職 etc
- ・教育者は不確実性時代の教育のあり方を常に学びたいと思う。内発的動機づけの能力が必要だと思います。
- ・日本の大学の学びには、学生の主体性にとても欠けていると感じる。予習、復習のモチベーション向上にはとても興味がある→絶対的に必要と考える。
- ・本学でも同様の取組を行っていますが、学習支援の側面が強く、十分ではありません(学生のレベルの差が大きい)。(以上、原文まま)

4. 本日のセミナーの内容について等、その他、自由にご意見をお書きください。

- ・3に関連して事例紹介などがあればうれしい。
- ・環境整備が必要。教育学部、小・中学校
- ・これからも ICT について調べていこうと思う。
- ・オンライン授業1つとっても一方的授業ではなく反転授業等での双方向からの授業を進めていることが分かった。また、発言しない、できない人への配慮がフリーライダーへの対応も考えた上でのとりくみであるということを知り深い取組であることがよくわかった。
- ・挙手では、他の人たちに見られるので、ICTを使うのは「匿名」的で宜しい。
- ・アクティブラーニングに向く学生、不向きな学生がいるという点については実際に講習をする際にも気になっていたため、複数の要素から評価を行なう方法についてのお話が聞けてよかったです。
- ・概況から具体的な話までよくまとまっているセミナーでした。
- ・教員の教育に対し、きちんと大学が経費をかけて保障しているように見えたので、とてもうらやましいと思った。授業に必要な経費もけずられ、ニーズとずれたFDが行われていると感じているので教育の質の確保がされているように見えることが心からうらやましいです。
- ・はじめの一步が大事で大変だと思います。⇒学長表彰やインセンティブを設けてみては。先生のフィードバック作業は大変そう。
- ・来年から教育 ICT 関連事業をしている企業に就職しようと思っているので、本日参加させていただきました。教育ニーズが多様化し、現場はより多忙化する中で、ICTを活用することで、教育の質が確保されると考えております。自分自身も YouTube コンテンツなどを作成しているので、発信にとっても興味を持っています。ブレンディットラーニングなど、本日の話はとても参考になることばかりでした。先生がコンサルティングする授業が増えれば、大学に行くのがとても楽しくなりそうです。一学生の意見で申し訳ございません。

(次ページに続く)

- ・ICT 教育は技術の向上で増々高いレベルになっていくと思いますが、最大の問題はインフラの整備ではないかと思っています。学校及び学生の貧富の差に関係なく、公平に ICT を使った教育を全員が受けられる様に進める事も重要ではないかと感じます。自分の子供には十分な ICT 教育を受けさせたいと思います。
 - ・高等教育だけではなく、小学校／中学校／高校における、ICT を用いた教育のお話もお聞きしたいと思いました。将来中学高校の教員になりたいと思っているので…。
- (以上、原文まま)

5. 次の (1)、(2) について、該当するものに○をつけてください。

- (1) a. 千葉大学外の方 13名 b. 千葉大学内の方 22名 (回答なし 3名)
- (2) a. 学生 5名 b. 教員 11名 c. 大学職員(図書館職員を除く)12名 d. 図書館職員 3名
e. 出版関係 0名 f. その他 2名 (回答なし 5名)

6. シンポジウムを何で知りましたか? (複数回答あり)

- a. Web(アカデミック・リンク・センター)4名 b. Web(図書館)1名 c. Web(千葉大学)1名
d. 図書館内電子掲示 0名 e. ポスター1名 f. センターからのメール25名 g. Facebook・Twitter1名
h. asagao メールングリスト 2名 i. その他 5名 (知り合いからの紹介・前回セミナー案内など)

7. 学外(千葉大学外)の方にお伺いします。次の (1)、(2) について、該当するものに○を付けてください。

- (1) 参加の経緯 : a 所属機関からの推薦・業務命令 4名 b 自身の希望 11名
(2) 旅費の負担 : a 所属機関負担 10名 b 自己負担 3名 c その他 0名

8. 千葉大学 アカデミック・リンク・センターでは、セミナーの開催や関連する情報を提供しています。これらの情報を希望される方は、お名前・ご所属・メールアドレスをご記入ください。(既に登録されている方は引き続きお届けしますので、空欄で結構です)

お名前 : () ご所属 : ()
電子メールアドレス : 申込時に利用したもの それ以外 ()

ご協力ありがとうございました。

※ 6名が新規に継続的な情報提供を希望